

会 議 記 録				
会 議 の 名 称	決算特別委員会 総務文教分科会			会議場所 第3委員会室
				担当職員 井上
日 時	令和元年9月13日(金曜日)			開 議 午後 3時 7分
				閉 議 午後 3時42分
出席委員	◎福井 ○木村 三上 浅田 山本 松山 木曾 石野			
執行機関出席者				
事務局	山内事務局長、井上事務局次長			
傍聴	可・否	市民 0名	報道関係者 0名	議員 1名(小川)

会 議 の 概 要

15:07

1 開議

(事務局日程説明)

<事務局次長>

本日は、事務事業評価選定事業の論点整理を願う。

事務事業評価は、事業の目的や手法、成果、コスト、方向性を視点として、評価を行っていただくが、時間の制約もあるため、事前に論点とすべきことを委員間で整理しておく必要がある。

当日、この論点に沿った質疑を行い、限られた時間の中で適切な評価ができるよう、本日これから、論点整理を願うものである。

2 案件

○事務事業評価選定事業の論点整理について

<福井委員長>

それでは、事務事業評価を行うにあたり論点を整理したい。

(1) 移住・定住促進経費(移住促進施設事業)

<福井委員長>

選定理由は、「離れ」にのうみの運営方法について整理が必要である、直営よりも民間に委託をした方がいいのではないか、「離れ」にのうみを今後どのように活用していくのか、「離れ」にのうみが目的に沿った使用になっていない、実績と今後の方向性を聞きたい、ということであった。

<山本委員>

移住・定住促進施設が目的に沿った使用になっているのか、今後、指定管理も含めてどのように運営していくのかを具体的に聞いていきたい。

<木曾委員>

目的と全く違うことをしている。予算と違うので問題がある。公設は仕方がないが、市が関与せず民間に任せるといふふうに変えた方がいい。

<三上委員>

崇高な目的があるが、本気で移住者を増やすための方策、方向性を考えているのか。
＜福井委員長＞
目的に沿った運営になっているのかということと、今後の方向性はどうということまでまとめさせていただく。

（２）外国青年招致経費

＜福井委員長＞
選定理由は、内容が見えにくいのが何をしているのか、亀岡市のためになっているのか、ということであった。

＜松山委員＞
国際交流を進めるための経費であるが、アメリカに特化しているのではないということと、国際交流員は具体的にどのようなことをしているのかを論点としたい。姉妹都市との交流としてお互いに訪問し合うなど、前向きな事業に予算が使われるのであればいいが、それが見えない中でこのような報酬を払っていることを疑問に感じている。

＜木曾委員＞
国際交流員が何をどうしているのかが見えない。それが一番の問題点であると思う。事業目的を達成するためには、中国やベトナムなどから来ている在住外国人との交流を図り、市の窓口業務に反映してもらうような組織作りに切り替えていく方がいいのではないかと。国際交流員がどういう目的で来られているのかが見えない。

＜福井委員長＞
目的達成へのアプローチが見えないということか。

＜三上委員＞
国際交流員は、先日のオーストリア空手選手団の歓迎会で司会をされていたが、あのような機会も限られている。国際交流は大事であるが、市民力を活かし外国語に堪能な人に活躍していただく中で盛り上げていく方がいいのではないかと。そういうことに予算を使う方がいいのではないかと。思う。

＜木村副委員長＞
大井町にはベトナム人が100人くらいおられる企業がある。通訳ができる市民に交流をしてもらうといったことに予算を使う方がいいと思う。国際交流員の目的と業務内容がわからない。

＜山本委員＞
国際交流事業といっても活躍の場がないように感じる。成果に国際タイムズの発行と書かれているが、ごみ出し方法がわからない外国人に対して、英語版や他の言語のものを発行するというような実際に活用できることで活躍していただければいいと感じた。

＜木曾委員長＞
私の議長時代にセーフコミュニティの認証式があったが、国際交流員は式典で通訳をしていなかった。篠町自治会長をしていた井内さんが通訳をしていた。本来ならそういう時に活躍してもらうべきだと思う。セーフコミュニティ認証式には世界各国から来られるので、絶好のPRの場面だ。認証、再認証、再々認証と3回認証式を行っているが、国際交流員は1回もかかわっていない。活躍があまり見えない。

＜福井委員長＞
事業目的と事業内容が一致しているのかを論点としてまとめさせていただく。

(3) セーフコミュニティ推進事業経費

<福井委員長>

選定理由は、SC再々認証、ISS再認証も取得したので、これからは地域や学校・保育所と連携し、お金をかけずにやっていくべきではないか、ということであった。

<三上委員>

セーフスクールは認証しないと敢えて書いているということは、セーフコミュニティはまた認証するという事だと思ふ。果てしなく続けるのか。認証取得にかかわらず、地域が安全安心への関心を高め、色々な活動ができていけばいいと思ふ。

<松山委員>

以前、防犯カメラが作動していないという事例があった。成果として2011年と2018年の比較が書かれており減少しているが、近年の犯罪抑止対策の効果であり、国全体で減少している。具体的な数値目標を立てた上で目標を達成しなければ、次の認証は必要がないのではないかと思ふ。

<木曾委員>

自治会としてセーフコミュニティに取り組んでいるのは篠町だけかと思ふが、成果は市全体の成果として出ている。取り組みをしていないまちでも意識が高まり減少している中で、篠町だけで再々認証を取っているのであればそれは切り上げて、今まで通りの取り組みをやっていく方がいいのではないかと思ふ。篠町以外でセーフコミュニティに取り組んでいる自治会はあるのか。

<浅田委員>

以前は馬路町自治会でセーフコミュニティに取り組んでいたと聞いている。川東保育所の子どもに手や足の骨を折る子どもが多いということがあり、セーフコミュニティで集中して対策をしていた。

<木曾委員>

23自治会すべてが取り組んだ結果、これだけの成果が上がったということであればわかるが、取り組んでいないまちも減っているのであれば、セーフコミュニティにこだわる必要はないのではないか。セーフコミュニティの趣旨は大事にしながら、学校もやめるのであれば、市もやめてもいいのではないか。過去に、ISO14001認証取得をしたが、次の認証はせず市独自の取り組みを行っている。同様に考えれば問題はないのではないか。当初、意識を高めていく時には認証が必要であったが、再々認証までできたので、独立して市独自の考え方で安全意識のレベルを上げていくことが本来大事なのであって、セーフコミュニティ推進事業をやるから事故が減るのではなく、なくても減るのが本来の姿であり、そこに戻してみてもいいのではないかと思ふ。

<福井委員長>

論点の1つは取り組みの広がりや成果の関連、もう1つは明確な数値目標と達成度、もう1つはセーフコミュニティの貢献度ということか。

<石野委員>

10年やっている。ノウハウもわかっているので、今後は地道に地域に広げていけばいいと思ふ。

<三上委員>

セーフコミュニティは広がってもいい。施策の充実で事故や事件は減っているが、認証に頼るべきではないと思っている。

<木曾委員>

セーフコミュニティで行政視察に来られる数も減っている。全国的にセーフコミュ

ニティの認証を取得する市の数も減っているようだ。広がりには難しい。生涯学習のようにはずっと伸びていく方向ではない。一定のところで止まっている。

<福井委員長>

最終的には、認証に頼らない施策はないのかということである。会議の論点としては、取り組みの広がりや成果の関連、明確な数値目標と達成度、セーフコミュニティの貢献度というところでまとめさせていただく。SC再々認証、ISS再認証も取得した。これからは、地域や学校・保育所と連携し、お金をかけずにやっていくべきではないか。

—全員了—

3 その他

<福井委員長>

今回は、9月19日（木）午前10時から全体会、引き続き、午前10時30分から分科会を開催し、現地調査、決算審査をよろしく願います。

散会 ～15:42